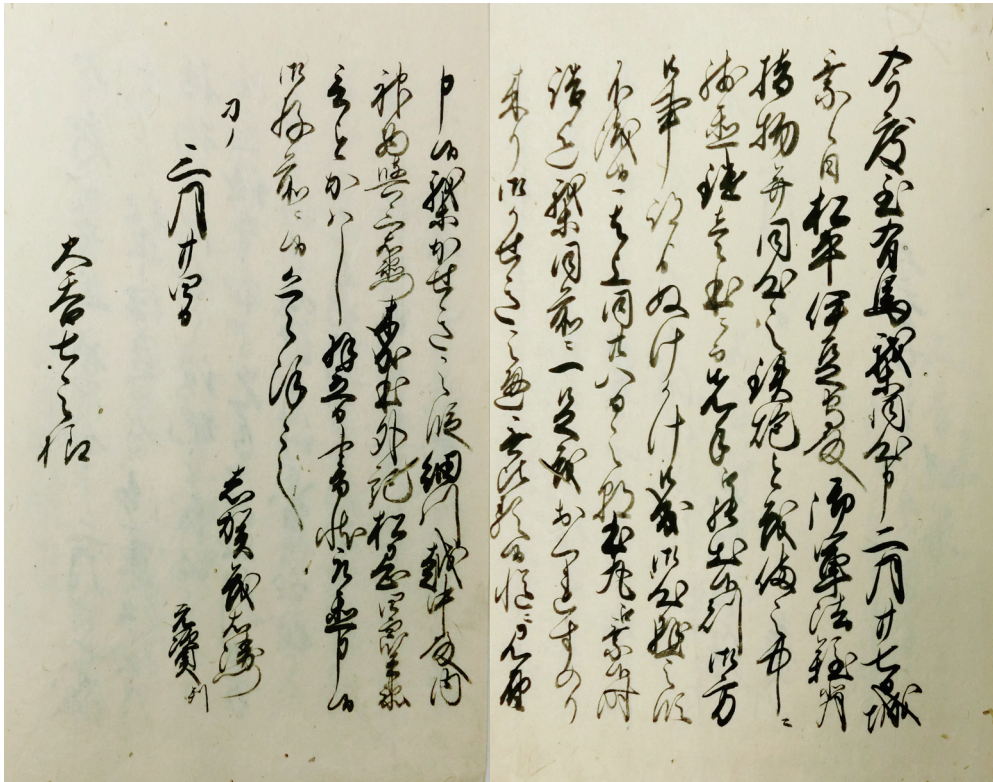
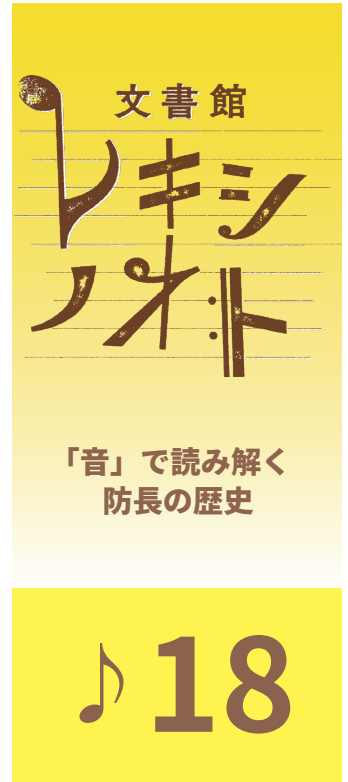




「大吞十郎兵衛許房書出」（県庁伝来旧藩記録 閥閥録 巻151）



戦いのオト①

戦場（いくさば）の音と声

～軍勢を指揮する音、軍功を留め置く声～

【戦場の音】

戦国から江戸時代以前の戦場では、どのような音が響いていたのでしょうか。

攻城戦（籠城戦）・野戦・山岳戦など戦いの形は様々ですが、織田信長・豊臣秀吉による天下統一戦の前後からは、鉄炮を撃ちかけ、弓箭を射かけ、騎馬武者が疾走。また、足軽などの歩兵が、ある時は穂先を揃え、ある時は入り乱れ、刀槍を交えて戦う…そのような姿が今日では描かれ、またイメージされることが多いようです。

戦場では、弓・鉄炮、刀や槍、時には大砲（大筒）などの武具が発する音に加え、鎧・甲冑の触れあう音、旗幟が風になびく音、馬のいななき、さらには軍を指揮するために太鼓（シートNo.4参照）・法螺貝・鐘などの音が響いていたのです。

このよう集団を指揮するために音を利用することは、江戸時代にも引き継がれていきます。例えば参勤交代。この道中は藩主の駕籠を中心とした行列という「隊列」を組んで江戸と国元を往復します。その「隊列」（行列）を滞りなく進めるのに拍子木を使っていました。

【戦場の声】

次に戦場の声です。恐ろしい戦場でのことですので、怒号・罵声・悲鳴…、色々な場面で様々な人間の声がとどろいたことでしょう。比較的整然としたものとしては、「関の声」や「勝ち関」などがあるでしょうか。戦場で気持ちを奮い立たせ、勝利した際にはそれを確認する…戦場での声もまた多くありました。

武器としての声の役割もあります。「言葉合戦」とも言われます。例えば城や陣地などに籠もる敵に対して罵声を浴びせて挑発し、挑発に乗って出てきた敵を撃退するというものです。敵に対する悪口は、翻せば自軍の士気を鼓舞する効果もありました。

ところで、戦場での手柄も声が一役買っていました。上に示した写真は、肥前・肥後（現長崎県・熊本県）で発生した天草・島原の乱（1637-38）の時、一揆軍が籠城した原城（現長崎県南島原市）攻撃に関する資料（写）です。この戦いには九州の諸大名が一揆鎮圧の主力軍となりましたが、萩藩も参戦しています。

ここでとりあげているのは、この戦いに加わ



(右から)

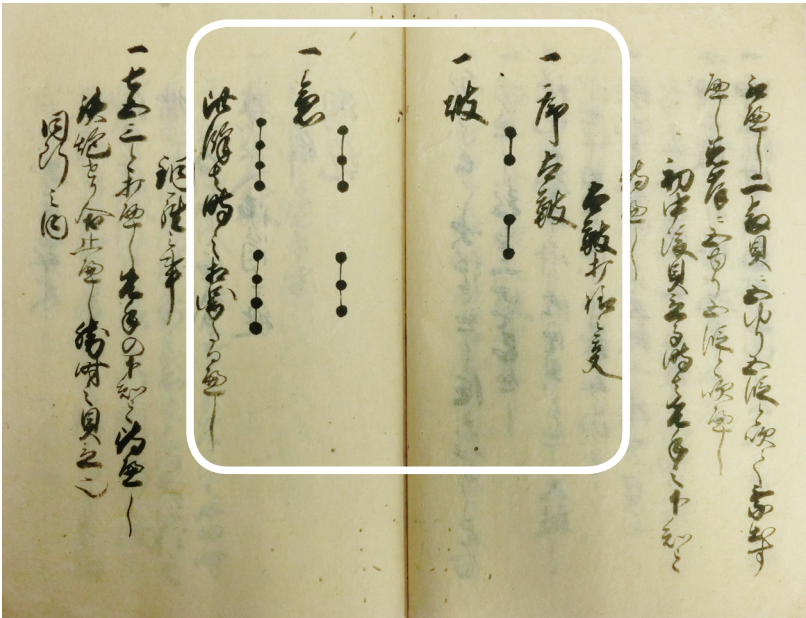
「関原陣」「大坂陣」「島原陣」
(毛利家文庫 14 軍記 21・22・25)

毛利家文庫 14 軍記には、御什書や閥閥録、譜録などから、戦いに関する記録を抽出してまとめたものがあります。

上に挙げたものは、関ヶ原の戦い、大坂の陣、天草・島原の乱に関するものです。大規模な動きの中で、毛利家の動向を概観したり、それぞれの戦いの手掛かりを得たりすることができます。

った大吞七兵衛（許忠）に宛てた、萩藩士志賀茂右衛門（元資）の書状です。内容は、原城総攻撃時（2月27～28日）の大吞七兵衛の戦場での働きを列記し、そのことを志賀茂右衛門が保証しているのです。しかもその「保証人」は志賀だけではなく、「細川越中守」（熊本藩主・細川忠利）の家臣である「神西与三右衛門」・「森本外記」・「松岡四郎兵衛」の3名も加わって、彼らと「言

をか八し、翌日書状取置申候」（言葉を交わして書状にしておくことにした（約束した））のでした。矢玉が飛び交い、敵味方入り乱れる戦場において、自らの武功を明らかにするために、他藩の人とも声を掛け合い、お互いの証拠を残す取り決めをしたのでした。



右は「相図考証」（毛利家文庫15文武30）から。この資料は、萩藩における相図の方法について集められたものです。相図には、貝（法螺貝）・鉦・太鼓・鐘・拍子木など音の出るものにとどまらず、狼煙や篝火のように視覚で捉えるものも含まれています。
枠線で囲った冒頭には「太鼓打様之事」とあり、「序・破・急」の順で太鼓を打つ様を「●」で示しています。

今度至有馬、我等同心申、二月廿七日城
乗候日、松平伊豆守殿御軍法難背
指物并同、心之鉄炮を茂備之中二
残置、鑓壺本二而先手江罷出候刻、御方
御事、跡よりぬけかけ御出、御心懸之段
不浅候、其上前廿八日之朝、本丸江乗候時、
詰迄我等同前二一足茂おくれすのり
来り御かせき之通無比類候、慥二見届
申候、我等かせき之段、細川越中殿内
神西与三右衛門・森本外記・松岡四郎兵衛
言をか八し、翌日書状取置申候、
御存前二候、恐々謹言、
志賀茂右衛門
三月廿四日
大吞七兵衛様
元資 判

表面に示した「大吞十郎兵衛許房書出」（県庁伝来旧藩記録 閥閥録 巻151）。「大吞七兵（衛）」は、2月27日の原城総攻撃に際し、「抜け駆け」して攻城軍に加わり、翌日の本丸攻めの時も大いに軍功を挙げたようです（「御かせき之通無比類候」）。
これらの功績を志賀と、熊本藩士の神西・森本・松岡と確認し合っています。
ちなみにこの時の戦功は、「寛永拾五年三（ママ）月惣寄之節、茂右衛門同様乗込、首二級討取候」（毛利家文庫23譜録お85 大吞十郎兵衛許房）とのことでした。